

| 科目名 Course Name | | 開講年次 | 開講学期 | 曜日・時限 |
|--|-----------------------------------|-----------|--------|--------------|
| ファッションデザイン演習Ⅱ Fashion Design Seminar Ⅱ | | 2年 | 前期 | 別途、時間割参照 |
| 単位数 | 授業の形態 | 授業の性格 | | 履修上の制限 |
| 2単位 | 演習 | 選択 | (特になし) | |
| 当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目 | | | | |
| 同時に履修しておくことが望まれる科目 | | | | |
| 特になし | | | | |
| 担当者に関する情報 | | | | |
| 氏名 | 研究室の場所 | オフィスアワー | | 電話番号・メールアドレス |
| 阿部芳子 | 社会福祉棟・3F | 授業中に指示します | | 授業中に指示します |
| 授業の概要 | | | | |
| ファッションデザイン演習Ⅰをベースに衣服を製作、コーディネート、演出を考え着装発表する。展示・ショーの発表も考える。デザインにあったあき、部分縫いを理解する。 | | | | |
| 授業の目標 | | | | |
| ①ファッションデザインⅠを踏まえ、衣類をデザイン、製作することができるようにする。②基本の衣類のつくりを部分縫いにて学習することができる。③製作した作品を見せるためにトータルコーディネート演出し、作品をよりよく発表することができる。 | | | | |
| 授業の方法 | | | | |
| 演習形式。作品製作、コーディネート発表（演出含む）、レポート提出。 | | | | |
| 学習の成果（学習成果） | | | | |
| ①基本的な素材・技術を使用した衣服デザイン、製作することができる。②トータルコーディネートすることにより、センスを磨くことができる。③部分縫いで衣類の構造を理解することができる。 | | | | |
| 授業のスケジュールと内容 | | | | |
| 第1回目 | ガイダンス ・ 作品製作の考え方、 取り組み 素材・デザイン・費用 | | | |
| 第2回目 | 各自の作品デザイン提案 デザイン画提案 スケジュール打ち合わせ | | | |
| 第3回目 | 各自の作品デザイン提案 製作手順 | | | |
| 第4回目 | 各自の作品パターン製作 平面・立体・他 | | | |
| 第5回目 | 各自の作品パターン製作 パターン完成 | | | |
| 第6回目 | 各自の作品製作（個人作品） 素材の準備 裁断 | | | |

| | | |
|--|---------|--|
| 第7回目 | 各自の作品製作 | 仮縫い準備 |
| 第8回目 | 各自の作品製作 | 仮縫い 点検 |
| 第9回目 | 各自の作品製作 | 本縫い |
| 第10回目 | 各自の作品製作 | 縫い代始末 アイロンかけ |
| 第11回目 | 各自の作品製作 | 本縫い 部分仕上げ、 |
| 第12回目 | 各自の作品製作 | ファースナー付け 部分仕上げ |
| 第13回目 | 各自の作品製作 | 仕上げ (アイロンかけ) レポート作成 |
| 第14回目 | 各自の作品完成 | 発表のためのコーディネート準備 着装発表 |
| 第15回目 | まとめ | コーディネート批評 作品とレポート提出 |
| 成績評価の方法と基準 | | |
| 評価の領域 | 割合 | 評価の基準 |
| 授業参加態度 | 30% | 遅刻、欠席がなく、作品の完成に向けて進捗は適切か。 |
| レポート | 20% | 製作工程について、適切にまとめられ、創意工夫されているか。 |
| 調査報告書 | | |
| 小テスト | | |
| 試験 | | |
| 発表内容 (態度含む) | 50% | 作品、今までの知識、技術を生かし、高度なデザインで被服製作ができていますか。 |
| その他 | | |
| 教科書と参考図書 | | |
| 実物提示 | | |
| 履修上の留意点・ルール | | |
| 遅刻、飲食、携帯電話使用禁止。忘れ物をせず、授業準備を怠らないこと。積極的に授業参加することを臨む。 | | |

| 科目名 Course Name | | 開講年次 | 開講学期 | 曜日・時限 |
|---|--|-----------|------|--------------|
| ファッションデザイン演習Ⅱ Fashion Design SeminarⅡ | | 1年 | 後期 | 別途、時間割参照 |
| 単位数 | 授業の形態 | 授業の性格 | | 履修上の制限 |
| 2単位 | 演習 | 選択 | (なし) | なし |
| 当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目 | | | | |
| ファッションフィールド関連科目 | | | | |
| 同時に履修しておくことが望まれる科目 | | | | |
| ファッションフィールド関連科目、ファッションデザイン演習Ⅰ | | | | |
| 担当者に関する情報 | | | | |
| 氏名 | 研究室の場所 | オフィスアワー | | 電話番号・メールアドレス |
| 笹崎綾野 | 授業中に指示します | 授業中に指示します | | 授業中に指示します |
| 授業の概要 | | | | |
| ファッションデザイン演習Ⅱでは、製図法のバリエーションとデザインによる製図の展開方法について実践する。タイトスカート、ワンピースの製作を通して、デザイン、パターンメイキングから縫製までの衣服製作の一連の工程について習得することを目指す。さらに、ワンピースのパターン製作を基に、原型製図の応用と展開方法について理解する。 | | | | |
| 授業の目標 | | | | |
| ①タイトスカート、ワンピースの製作を通して、デザイン、パターン作製、試作・補正、縫製までの一連の工程を実践できるようにする。 ②ワンピースの製図法、展開法を理解できるようにする。 ③アイロン、ミシンなどを使いこなせるようにする。 | | | | |
| 授業の方法 | | | | |
| 演習形式。作品製作を取り入れ、衣装設計・製作の実践力の習得を図る。 | | | | |
| 学習の成果（学習成果） | | | | |
| ①デザインやアイテムによって、製図法を選択、応用できる。 ②衣服製作の一連の流れを実践できる。 | | | | |
| 授業のスケジュールと内容 | | | | |
| 第1回目 | オリエンテーション、スカート原型「タイトスカート」製図①： 15回の授業内容について説明する。平面製図法で前スカートを作図する。 | | | |
| 第2回目 | スカート原型「タイトスカート」製図②、型紙作り： 後ろスカートを作図する。型紙を作成する。 | | | |
| 第3回目 | スカート原型「タイトスカート」裁断・印付け： 本布を裁断し、印を付ける。 | | | |
| 第4回目 | スカート原型「タイトスカート」くせとり・仮縫い・補正： 布のくせとりを行い、仮縫いする。試着し、補正を行う。 | | | |
| 第5回目 | スカート原型「タイトスカート」縫製①： ウエストダーツを縫い、表前スカートと表後スカートを縫い合わせ組み立てる。裾をまつる。 | | | |
| 第6回目 | スカート原型「タイトスカート」縫製②： ファスナーをつける。 | | | |

| | | |
|---|---|--|
| 第7回目 | スカート原型「タイトスカート」縫製③：裏布を裁断し、印を付ける。裏スカートを縫製する。 | |
| 第8回目 | スカート原型「タイトスカート」縫製④：裏スカートを縫製する（きせをかける）。表スカートと裏スカートを合わせる。 | |
| 第9回目 | スカート原型「タイトスカート」縫製⑤：ベルトを作る。ベルトをウエスト部分につける。 | |
| 第10回目 | スカート原型「タイトスカート」仕上げ、まとめ：かんぬき止め、ホック付けを行う。作品発表・講評。レポート作成(セミタイトスカート)。 | |
| 第11回目 | 立体裁断① | |
| 第12回目 | 立体裁断② | |
| 第13回目 | 立体裁断③ | |
| 第14回目 | 立体裁断④ | |
| 第15回目 | まとめ、発表・講評(立体裁断作品) | |
| | | |
| 成績評価の方法と基準 | | |
| 評価の領域 | 割合 | 評価の基準 |
| 授業参加態度 | 30% | 遅刻、欠席がなく、積極的に授業に参加している。 |
| レポート | 20% | 製作工程、方法について、適切にまとまっている。創意工夫がされている。期限内に提出されている。 |
| 調査報告書 | | |
| 小テスト | | |
| 試験 | | |
| 発表内容（態度含む） | 10% | 着装評価について、適切に発表できている。 |
| その他 | 40% | 作品が説明通りに仕上がり、完成度の高いものになっている。作品を期限内に仕上げている。 |
| 教科書と参考図書 | | |
| 教科書：中屋典子・三吉満智子 監修 『服装造形学 技術編Ⅰ』 文化出版局 参考書：佐藤貴美枝 『アイテム別部分縫い集vol.2 ブラウス&ワンピース編』 『アイテム別部分縫い集vol.1 スカート&パンツ編』 文化出版局 | | |
| 履修上の留意点・ルール | | |
| 演習授業の為、原則、欠席・遅刻を認めない(やむをえない場合は、2/3以上の出席とする)。材料費(布、副資材、ファイル等)は自己負担とする。忘れ物、飲食、私語、携帯電話等の使用を禁ずる。 | | |